

■大隈言道 歌人。幕末に近代短歌を先駆する歌作と大胆な評論したが忘れられ、没後30年に佐佐木信綱が再発見。

おおくまことみち

古事記伝・1798＝

福岡薬院抱安学橋で大隈言朝の第四子に生まれる。父は酒屋・質屋などを営んで財を成し、私財を寄進して苗字帯刀を許され、歌や書も巧みだった。母は刀匠信国氏の出で、大伯父に俳人江棧がいた。

伊能測量始・1800＝2歳

：弟の言則誕生。

幼時から書を読み字を書くのが好きで、

青洲麻酔手術1805＝7歳：父言朝が死去。この頃、筑前の名家二川相近に入門して書と和歌を習う。

いざノ報復・1806＝8歳：兄の言愛も死去したため、家督を相続。母や番頭が家業を切り盛りする。

いざノ船狼藉・1807＝9歳：

二川相近が父代わりの存在となり、敬慕し続ける。

伊能測量終・1816＝18歳：

水野忠成老中1818＝20歳：

異国船打払令1825＝27歳：

シボム事件・1828＝30歳：

鼠小僧磔・1832＝34歳：\*開眼し、従来の歌風を破った歌を詠み始め、積極的に弟子をとって熱心に指導するようになる。野村もと(後の望東尼)が夫の貞貫とともに入門。

天保大飢饉始1833＝35歳：言道初期の和歌26首が石松元啓「山里集」に載る。

高島砲術・1834＝36歳：

・1836＝38歳

\*歌作に専念すべく、商家の家職を言則に譲り、福岡今泉に隠居。家を「池萍堂(ささのや)」と号す。恩師二川相近が死去。

大塩平八郎乱1837＝39歳：大塩平八郎の決起に感銘したのか、短冊一万枚を百日で書き上げ近所の農家に配布。

適塾ホヱン・1838＝40歳：「新泉日記」(歌138首)。

蛸社の獄・1839＝41歳

：広瀬淡窓の塾(威宜園)に入門するが、その才がただならぬのに驚かれて客分扱いとなり、まもなく帰宅。

勸進帳初演・1840＝42歳

：「春野集」(谷川本、歌133首)。

天保の改革始1841＝43歳

：「春野集」(山鹿本、歌121首)。

天保改革弾圧1842＝44歳

：広瀬淡窓が福岡を訪れた際、「ささのや」に招宴。

順天堂始・1843＝45歳

：内助の功大きかった妻が死去。その後、生涯を独身で通す。

天保改革終・1844＝46歳

：歌論「ひとりごち」なる。「甲辰集」。

阿部正弘首座1845＝47歳

：「乙巳集」(歌213首)。

・1848＝50歳：母が死去。「田家集」(歌60首)。

北斎没・1849＝51歳

：「己酉集」。

国定忠治磔・1850＝52歳

：「庚戌集」。

尊徳報徳論・1851＝53歳

：「辛亥集」,「春野集」(小林本)

万次郎帰国・1852＝54歳

：「壬子集」

ペリー来航・1853＝55歳：

歌集の出版をする願望が高まり、

蕃書調所・1857＝59歳：\*意を決して大坂に上る。緒方洪庵と知り合う。福岡藩の蔵屋敷で世話になり、手伝いをしながら豪商たちとも交流、歌の指導・依頼の揮毫・各地を周遊するなどして暮し、能筆ぶりから難波三筆と称えられる。

安政の大獄・1858＝60歳

：「戊午集」12巻。

安政の大獄・1859＝61歳

：「大隈言道家集」2冊,「今ばし集」2冊。

桜田門外変・1860＝62歳

遣欧使節・1861＝63歳

：福岡藩で辛酉の獄の大弾圧。望東尼が大坂に上り、言道を訪ねる。

生麦事件・1862＝64歳

：望東尼と入獄中の平野国臣の親交が深まる。

8月18日政変1863＝65歳

：望東尼の「向陵集」に序文を書く。悲願の歌集「草徑集」3巻をようやく出版。

薩摩藩士密航1865＝67歳

：望東尼が捉えられ姫島に配流。

薩長同盟・1866＝68歳

：高杉晋作が望東尼を救出。

大政奉還・1867＝69歳

：門弟小林重治との合作「荻葉集」(各61首)。望東尼が死去。深くなった大坂での縁を振り切って帰福し、

明治維新・1868＝70歳

\*中風のため病臥し、「ささのや」で没した。